

輸出事業計画

※申請者名：蛭子屋合名会社、品目：味噌

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・1998年より大阪の商社を通じてヨーロッパを中心に長期熟成の玄米味噌、麦味噌を輸出している。（全てOEM）
- ・2018年有機JASの認証を取得し有機味噌の仕込みを開始した。
- ・アメリカ向けに一次加工してスタンドパックに詰めた玄米味噌が好調である。

【課題】

- ・輸出商社が1社のみで依存度が高く、行き先が固定化しているので世界情勢に左右されやすい。他地域への輸出を目指せばFSSC22000認証の取得が必要となる。
- ・一部業務用もあるが、小売り向けに袋詰め形態で出荷している。今後は使いやすさを求められるのでカップに対応した設備が必要となる。
- ・ヨーロッパで有機市場が伸びている状況は把握しているが、市場調査や営業戦略を自社でできない。

2. 輸出事業計画の取組内容

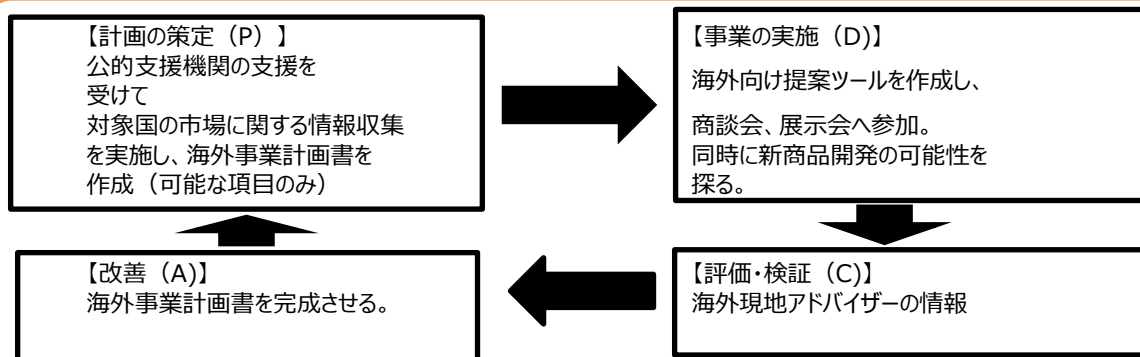
【製造】

- ・2019年ISO22000認証を取得し現在運用中である。今後はFSSC22000認証の取得が求められると考えるので令和7年の取得を目指す。
- ・お客様からの要望が強いカップ入りの製品を作る設備を導入する。
- ・今後の伸びが期待できる有機市場に向けて味噌を使った加工品の有機バージョンを開発する。

【流通・販売】

- ・不安定な海外情勢を踏まえ、輸出対象国・地域を拡大すべく積極的に商談会に参加し、国内国外の展示会へ出展する。
- ・みそ業界として「MISO」の認知度を高める取り組みが始まるので、その流れに乗って自社をアピールする。
- ・公的機関の支援を受けて自社のスキルアップを図る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和4年度）	目標年（令和9年度）
輸出額（千円）	12,399	20,400
輸出量（kg）	33,404	50,300
輸出先国	イギリス、オランダ、スペイン、ポルトガル、セルビア、チェコ、オーストラリア、アメリカ、シンガポール、香港、マレーシア、ベトナム、レバノン、南アフリカ	イギリス、オランダ、スペイン、ポルトガル、セルビア、チェコ、ドイツ、フランス、オーストラリア、アメリカ、シンガポール、香港、マレーシア、ベトナム、中国、レバノン、南アフリカ